

セキュアな環境における 生成AIの校務での活用に関する実証事業 成果報告会（事業Ⅰ・嬉野市）



嬉野温泉公式キャラクター「ゆっつらくん」





1 嬉野市の概要

2 本事業参画の狙いとその達成度振り返り

3 本事業を支えた「生成AI部会」の取り組み

4 創出できた活用事例



1 嬉野市の概要

2 本事業参画の狙いとその達成度振り返り

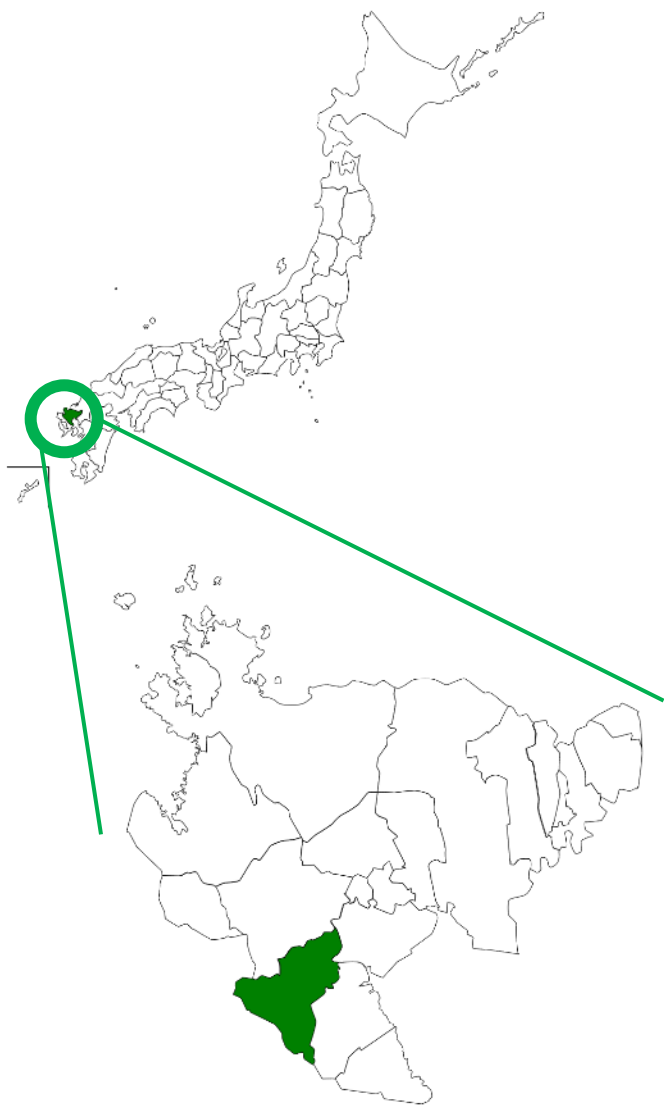
3 本事業を支えた「生成AI部会」の取り組み

4 創出できた活用事例



うれしの
佐賀県嬉野市

日本三大美肌の湯で知られる温泉と、お茶の名産地のまち



位置	佐賀県西部
人口	24,120人
学校数	小学校 8校 中学校 4校
児童生徒数	小学校 1,268人 中学校 638人
学校 教職員数	小学校 173人 中学校 90人
教育委員会 職員数	24人

※：各種数値は2026年2月28日時点



1 嬉野市の概要

2 本事業参画の狙いとその達成度振り返り

3 本事業を支えた「生成AI部会」の取り組み

4 創出できた活用事例



本事業参画の狙いとその達成度振り返り

本事業参画を契機として、業務効率化、教育の質向上、生成AI活用の日常的浸透、教職員一人丸での活用をおおむね実現できた。他方、セキュアな環境での活用浸透は課題として残った。

本事業を通じて実現したかったこと

事業終了時点での達成度

業務効率化

- 教職員の働き方改革を推進したい
- 人の手でなくてもできる業務はAIに任せて、人でなければできないことに時間を割きたい



- ✓ 本事業および市独自のアンケートからは、実感効果として時間削減を最も多く挙げられており、多くの業務で**それぞれ週30-60分の短縮効果を実感**

教育の質向上

- 授業や教材作成にも活用することで、児童生徒にとってよりよい学びを提供できるようにしたい



- ✓ 本事業の事後アンケートからは、最も品質向上に効果のあった活用シーンとして授業活用が挙げられ、**発問案・活用案のアイデア出しが有用**だった声が見られた

生成AI活用の日常的浸透

- 教職員が、業務を支えるパートナーとして生成AIを活用するのが当たり前にしたい



- ✓ **55%***の教職員が生成AIを週1回以上校務に利用と回答し、**活用が日常化** (*：一般的な生成AIも含む)
- ✓ ただし、セキュアなAIチャットボット活用に絞ると**約10%に落ちてしまった点は課題**

教職員一人丸での活用

- 対象を教員に限っていないからこそ、事務職員からも活用を生み出したい



- ✓ **82%**の学校で事務職員も生成AIを活用
- ✓ 徴収金・集金のお知らせ文書作成や、クレーム注意な家庭への督促方法壁打ち等、**事務職員ならではの活用**も生まれた

今回の成果を生み出すカギとなった**生成AI部会の取り組み**と、**現場で生まれたセキュアな環境での活用事例**についてこのあとお伝えします



1 嬉野市の概要

2 本事業参画の狙いとその達成度振り返り

3 本事業を支えた「生成AI部会」の取り組み

4 創出できた活用事例

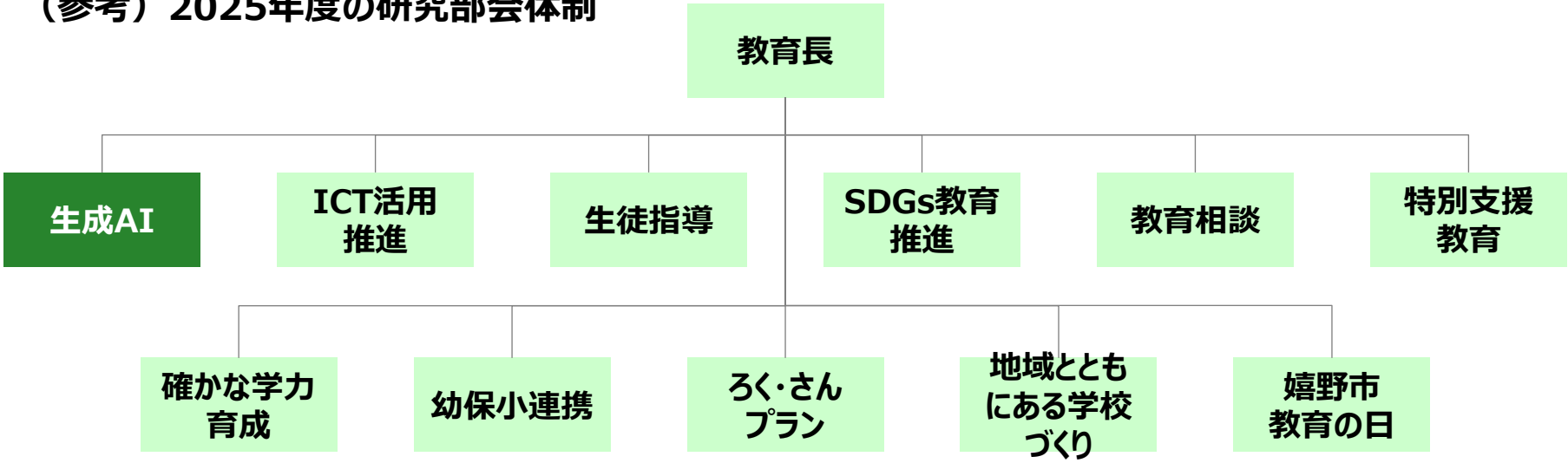


行政・学校現場一体となって教育課題へ向き合う「研究部会」

本市では従来より、教育長のリーダーシップの下で組成された「重点課題に対する研究部会」が存在し、本事業でも生成AI部会が活動推進に大きな役割を果たした。

- 本市では「**教育の質向上**」と「**今日的な教育課題への対応**」を図るため、教育長のリーダーシップの下、**教育委員会が重点課題を設定し学校現場の実践を基盤として研究を進める**体制を整備
- その中心となるのが「**重点課題に対する研究部会**」
 - ・ 部会長は学校長、部会員は各校教員で構成され、教育委員会職員も関わることで**行政・学校現場が協働**
 - ・ 各校の実践を共有し、**個々の学校にとどまらない知見を蓄積・還元**することで、実践の改善や新規の取組へ発展していく循環を創出
 - ・ 2025年度は以下のとおり11の部会を組成（**生成AI部会は新規に設置**）
- 本事業も、**生成AI部会が教育委員会と学校現場をつなぐハブ**となって活動を推進（**詳細次頁**）

（参考）2025年度の研究部会体制



生成AI部会による活動推進

生成AI部会が教育委員会と学校現場をつなぐハブとしての役割を担い、各校の情報交換や教委からの資料等の校内展開に加え、アンケートや全体研修での事例発表を主導した。

教育委員会



- 事業者からの情報を各校に共有
- 現場の状況を把握

生成AI部会



- 教委からの情報を現場に展開
- 現場の実践や声を拾い、部会内で共有

学校現場



- 部会から情報を受領
- 現場で日々生成AI活用を実践

活動内容抜粋

日常の活動

実践・課題感の情報交換

- 各校の実践や課題感を定期的に持ち寄り
- 本市の規模感 かつ 生成AI部会という枠組みだからこそ**のざっくばらんな討議が可能**

教委からの資料・情報の展開・浸透

- 教育委員会を通じて事業者から提供される**資材（プロンプト集・活用事例ペーパー等）**や諸情報を、校内へ展開
- 生成AI部会の部会員は各校教頭先生が務めたため、**確実な校内浸透を実現**

節目の活動

独自アンケートによる活用状況把握

- 本事業で実施したものとは別に、生成AI部会で独自にアンケートを実施
- 活用状況や**活用に関するリアルな声**を拾い、成果や課題を整理

「嬉野市教育の日」での事例発表

- 本市では11月第2日曜日を「嬉野市教育の日」と位置づけ
- 午後に実施する全教職員参加型の研修で、**小中1校ずつの代表校が実践事例を発表**
- 本事業の事後アンケートでは、**活用につながった取り組みとして最多得票**



1 嬉野市の概要

2 本事業参画の狙いとその達成度振り返り

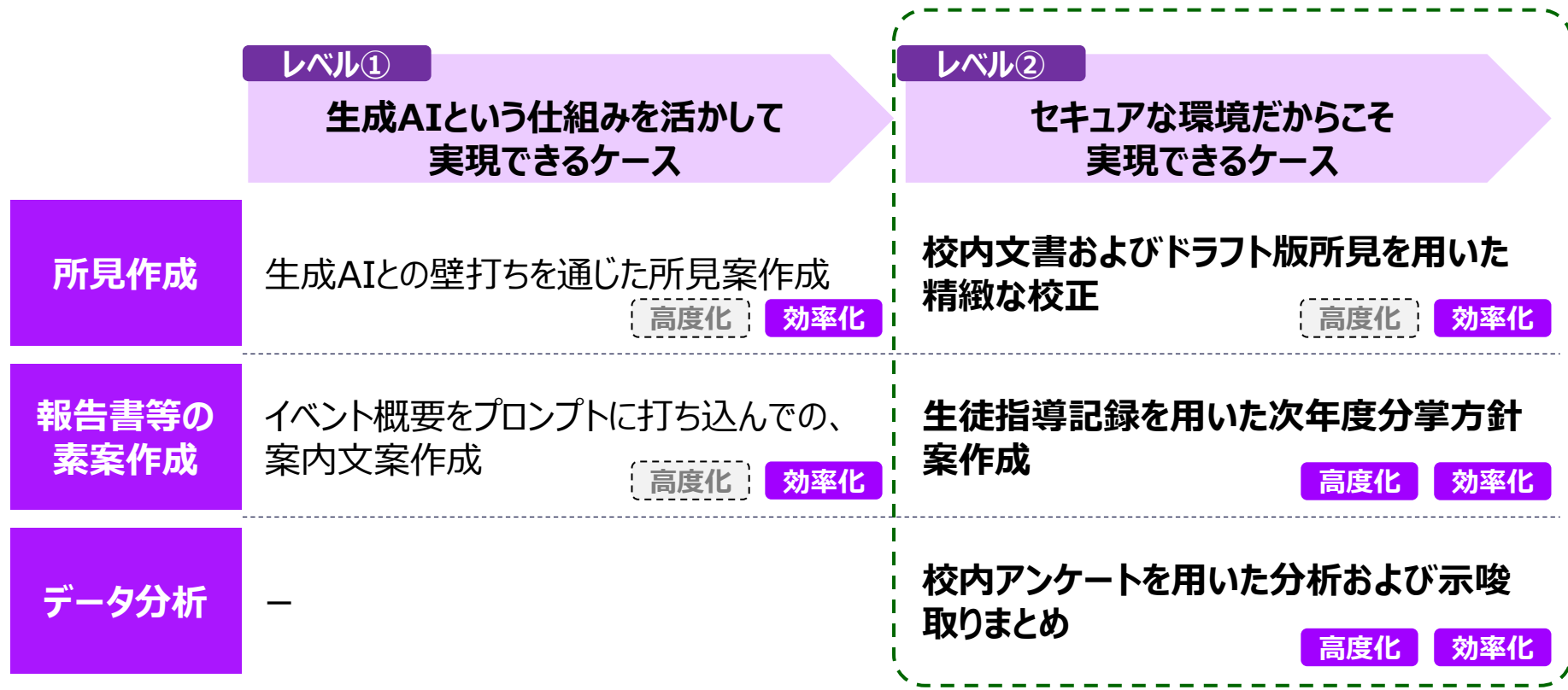
3 本事業を支えた「生成AI部会」の取り組み

4 創出できた活用事例



創出できた活用事例（アクセンチュア資料再掲）

活用ログや実証地域のイベントでの事例発表等を通じて、高度化・効率化それぞれの観点で好事例を創出できた。本日はその一部として、セキュアな環境だからこそそのケースを紹介する。



このあとご紹介



セキュアならでは事例① 校内文書およびドラフト版所見を用いた精緻な校正

児童生徒ごとの所見コメント案を、表記に関する校内文書を読み込ませてまとめて校正することで、業務の正確性を向上させるとともに効率化を実現した。

ユースケース概要



先生のお困り

児童生徒の所見コメントは一旦作成した。校正したいけど、**通知表・指導要録表記には指定のルール**がある。単に生成AIに見てもらっただけだと、一般的な観点の修正にとどまってしまう、**別途確認が生じて二度手間**になりそうだ……。



データレイクに取り込んだデータ

・「通知表・指導要録の表記について（XX小）」

プロンプト

通知表所見の文章中の表記の校正をお願いします。
今から、19名分の所見を入力します。

・漢字の学習では、ただ繰り返し書くのではなく「覚える」ということを意識して練習するコツを掴み、粘り強く取り組んでいます。〜（以下略）

以上が所見です。所見では、表記が厳しく制限されています。
参考資料には、左に訂正すべき表記、右に正しい表記が入力されています。この参考資料をもとに、表記の訂正をお願いします。参考資料には、言葉の一覧があります。送り仮名が所見と違っていても、同じ言葉だと認識すれば、その言葉も訂正してください。
参考資料：通知表・指導要録の表記について（XX小）

実践後の感想

文末表現や句読点といった一般的な点だけではなく、**指定のルールに則った表記になっているかも含めてチェックして修正版を出力**してくれるから、**かなり手間が軽減**された！





セキュアならでは事例② 生徒指導記録を用いた次年度校務分掌方針作成

職員会議にて月次で報告していた生徒指導事案を用いて、当年度の傾向を踏まえた次年度の生徒指導部の留意点・活動案をまとめることで、前年踏襲の方針作成から脱却した。

ユースケース概要



先生のお困り

生徒指導部を担当している。**担当分掌の次年度方針を作成**する必要があるけれど、年度末は多忙だし、正直なところ**毎年ほぼ前年踏襲**の内容で済ませてしまっている……。



データレイクに取り込んだデータ

- ・「職員会議資料」（当月発生した生徒指導事案報告）

プロンプト

あなたは生徒指導に長けた経験豊富な教員です。



以下のデータを参照してください。

- ・R7年度生徒指導部活動方針
- ・職員会議資料_Y Y M M D D
- ・職員会議資料_Y Y M M D D（以下略）

【依頼内容】

今年度の生徒指導部活動方針と、職員会議で報告した各月の生徒指導事案をもとに、次年度にそれらを減らしていくために生徒指導部として留意すべき点と、具体的な活動方針案を作成してください。



実践後の感想

本校で発生した具体的事案を踏まえた内容になっているので、**前年踏襲したものより納得感・実効性がありそう**だ！イチから自分で考えて作成するのとは比べれば、**効率・内容どちらも向上**している。



セキュアならではの事例③ 校内アンケートを用いた分析・示唆取りまとめ

校内限りで取り扱っていたアンケート結果をAIチャットボットに取り込み、経時的な傾向や上がり下がりの幅が大きい項目を抽出してそこから見える示唆を出力させ、報告準備を効率化した。

ユースケース概要

デモ動画でもご紹介します



先生のお困り

学校評価アンケート等の回答を集計したはいいいけど、その**内容分析が大変だ**。過去の結果と比較したときに**どの項目が良好か・要注意か特定したり、結果からポイントとして何が言えるかイチから考えたりする時間が充分取れない……**。



データレイクに取り込んだデータ

・「学校評価アンケート回答」（保護者・児童・職員）

プロンプト

あなたは教育現場向けの意見分析AIです。



以下のデータを参照してください。

・R7学校評価アンケート集計結果

【依頼内容】

児童のアンケート結果を第1回・第2回での傾向の違いを示してほしい。

全校の結果をもとに数値が上がっている項目と下がっている項目をそれぞれ5つずつ変化が大きい順に教えてほしい

また、それらからいえることをまとめてほしい。

【条件】

児童用のアンケート結果の全校グラフシートのみを対象とする



実践後の感想

手作業で分析して考察していた時と比べて、**学校評議会での報告に向けた準備がかなり効率化された！**出力の品質も概ね満足いくもので、**自分だけでは浮かばない視点から課題や改善アイデアが出た**ので、内容も高度になった。

本事業で 得られた示唆

- ✓ 生成AIには、**校務の効率化・高度化を実現する大きな可能性**あり
 - 活用効果として実感があつたのは「業務時間短縮（効率化）」が最多
 - 児童生徒の理解状況を踏まえた発問づくり等の授業改善（内容高度化）の例もあり
 - 「初歩的な質問でも気軽に聞ける」という心理的メリットを挙げる声もあり
- ✓ 生成AIの活用を進めるには、**学校現場と教育委員会の連携・協働**が有効であり、**両者の間をつなぐ枠組み**（本市の場合は生成AI部会）がそのカギとなる
 - 教育委員会が一方的に方針を示すのではなく、教職員の主体的な実践を促進
 - 現場の実践を収集・検証し、成果を還元

課題

- ✓ チャット形式の出力のみだと、せっかく取り込んだ児童生徒のデータを活かしきれなかったため、**ダッシュボード等による分かりやすいデータ可視化の仕組み**が必要
 - 本市は事業期間がこの1年のみだったため、事業Ⅲの2年目の取り組みを学びたい
 - ✓ セキュアな環境下での活用浸透には、**教職員の感じる不安・不満・不便を丁寧に解消**していくことが必要
 - 個人情報取り扱いへの不安
 - 校務支援システムのデータが最新化されておらず不満
 - セキュアな環境のAIチャットボットは、一般的な生成AIと比べて利用するまでが煩雑で不便
- ☞ よりセキュアに・より便利にデータを扱って生成AIを活用するためにも、**次世代校務DX環境の整備**の重要性を実感